

＜環境基本計画改定に当たって必要な視点＞

- 世界の潮流に置いていかれないために、2030年、2050年の都民と地球のあり方に対して、自由と安全を担保していくための戦略である、というような、もう少し前向きなトーンが前面に出るといい。
- 今回の基本計画が東京という都市の歴史を考えた際にどういう位置付けになるのか。2050年、2100年まで視野に入れた形で地球と日本と東京のサステナビリティというものを計画しているというような、歴史的な視点、大きな視野の中で今回の計画を位置付けるということがあっていいのではないか。

＜都内外の自治体等との更なる連携＞

- 東京都内の自治体としての共通性と、各区市町村の特質というのがあるため、各区市町村が環境基本計画を策定する際に、東京都から各区市町村へ、東京都の環境基本計画にどう向き合うかということについてのメッセージのようなものがあると、各自治体は作業しやすいのかなと思う。

＜都民・企業等へのアプローチ手法等について＞

- 条例による制度強化に関しては、「義務化」という言葉が使われているものの、実は非常に柔軟に対応できるような方向性で検討されており、それが明確に伝わるような情報発信が非常に重要。
- 環境分野の話は、アルファベットが並んだり、難しい言葉が突然出てきたりするが、都民にとって、今回のように注書きがあるということは、理解を深めるのにとっても役に立つ。
- 時間軸の話として、全体像も分かりやすくなっている。

＜施策の考え方について＞

- マイボトルの持ち歩きは、プラごみの削減、その分の電力や資源の消費の削減など、多方面に効果のある対策であるし、ヘルスの観点からも重要な対策。
- NbSは、一番重要なのは、やはり脱炭素社会の実現に向けたソリューションズであると考え、NbSの理念が活かされるのは、戦略2というより、むしろ戦略1の方であると感じた。